

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)(検討会への報告案)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ④観光等分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
奈良公園観光地域活性化総合特区(奈良県)	3	2 進捗度 ・奈良市の観光入込客数の増加66% ・奈良市の宿泊者数の増加29% ・奈良市の観光消費額の増加38%	3.4 地域独自の取組 ・創業支援資金 ・宿泊施設の新設、増設にかかる税制優遇等	3.3	<p>・コロナ禍においても観光客数や宿泊客数を回復させた地域もあることから、評価指標の進捗度が低い状況を客観的に分析する必要があると思われる。前年度に課題として挙げられたインバウンド客に代わるターゲットの再設定について検討された形跡がなく、そのため、効果的なプロモーションやインセンティブを与えることができていないものと推察される。SNS等を活用しながら、ターゲットに準じたメディアへの効果的な魅力発信につとめることが求められる。</p> <p>・今後、DXの活用やSDGsを意識した公園としてのブランド構築など、ポテンシャルを活かせる飛躍の機会が到来しており、さらなる官民連携した取組みを期待。</p> <p>・民間が参入しやすいインフラ整備は文化財や自然資源を守りながら活かす優良事例と言える。更に交通動線の配慮や、時間効率化を生む仕組みも考えられている。民間の参入においては短期間で「予約の取れない施設」に成長している。数字の達成率以外に定性面において、高く評価する。</p> <p>・観光客の動静に左右されることなく、当地の優れた歴史・文化資源の維持に努めつつ、時間のかかる施設整備に着実に取り組んでいることは評価できる。しかし、目標値を大きく下回っていることをコロナ禍の影響と説明し、コロナ禍での経験を糧にアフターコロナに向けてどのような新しい奈良の観光を創造していくのか、というダイナミックな視点が見られない。このような消極的な姿勢が財政・税制・金融上の支援措置の活用の低調さにも現れているのではないか。</p>